



みなさん、こんにちは。中間市長の福田健次です。

厚生労働省から認知症本人大使「希望大使」として任命された丹野智文さんと令和4年4月6日（水）に対談する機会をいただきました。丹野さんは2013年に39歳の若さ

で若年性アルツハイマーと診断されました。しかし診断後も離職することなく、認知症当事者のためにも忘れ総合相談窓口「おれんじドア」を開設するなど、精力的に活動されています。ご自身の経験を語ることで、認知症に対する世間の偏見をなくし、備えや工夫をすることで認知症になっても自分らしく生きていける「安心して認知症になれるまち」にしたいと言われる丹野さん。今回の対談で本市の認知症支援の在り方を見つめ直すことができました。本市は、高齢化率が国や福岡県の平均を上回っており、今後も認知症になる人は増加することが予見されます。認知症について正しく理解し、誰もが我が事として考えることができる施策を検討していきたいと思います。「認知症 なかまで備え 支え合う」を目標に掲げ、市民のみなさまの思いを踏まえた取り組みを実践していきますので、何卒宜しく願いいたします。

令和4年4月22日

中間市長 福田 健次